

# 活動報告

Activity Report

Vol.5



- 2011年9月17日(土) 2011年度 第1回PBL推進協議会
- 2011年11月12日(土) 2011年度 第3回PBL推進協議会
- 2012年1月7日(土) 2011年度 第4回PBL推進協議会



2006年PBL研究会発足から本協議会にいたる6年間にわたり、PBL (Project-Based Learning) 型教育に携わる全国の大学、教育機関から事例報告を頂き、PBL型教育現場での授業運営に応用・実践する事を目的に理論と方法を考究してきました。2011年度は「PBL型教育の評価主体について」を年間テーマとし、第1回には2011年度本学プロジェクト科目担当者である、遠藤正彦氏(株式会社空)、上野康治氏、浜崎英子氏(NPO法人フラワー・サイコロジー協会)から、そして第3回には、地域連携活動に取り組む京都文教大学人間学部教授の森正美氏よりご報告いただきました。また、今年度まとめの回となる第4回では、「PBL型教育における評価について」をテーマとし、東京電機大学情報環境学部准教授の土肥紳一氏、専修大学ネットワーク情報学部教授の飯田周作氏にそれぞれの大学における授業カリキュラムの紹介と成績評価の両面からご報告いただきました。PBL型教育における評価には、どの大学も熟考を重ねるところであり、2月18日(土)開催の教育GPシンポジウムへとつながる内容となりました。

- 2011年10月14日(金) 2011年度 第2回市民公開型教職員協同講習会
- 2011年12月8日(木) 2011年度 第3回市民公開型教職員協同講習会



2011年度第1回に引き続きプロジェクト活動に必須である要素をテーマに掲げた講習会、第2回は、「プロジェクトにおけるチームビルディング」と題して、(財)生涯学習開発財団認定プロフェッショナルコーチの竹下知子氏(オフィスアニバーサリー)を迎えました。チームとして大切なのは、コミュニケーション、そしてその技術。グループと異なりゴールや思いを共有すること。相手のスタイルによって、コミュニケーションの方法を変えてみる。講習会で行われたワークショップからの学びを、その後のプロジェクトにどう活かせるか否かで、チームの最終成果が変わると感じました。「著作権講座—発信することの責任」をテーマとした第3回は、映像作家である楳本晃佑氏と写真家の武田陽介氏の2人のクリエイターに加え、作品の発信に関わるエディター、かまだゆたか氏(DoGA代表)と笠原敬太氏(社員食堂ラボ運営)を講師として迎えました。作品では必ず発信者の想いを伝えるとともに、作品の中の人物や建物などへの気配りをし、常に誠意をもって相手の立場で考えるといったメッセージを、プロジェクト科目受講生を中心とした本学教職員や一般からの参加者がしっかりと受け止めた講習会となりました。



## ■ 2011年10月22日(土) PBL教育フォーラム2011



株式会社SIGELの協賛を受け、「学生のやる気を引き出すPBL～実践的な学習をサポートする支援としかけ～」と題したフォーラムを開催しました。第1回目となる2011年度は、早稲田大学プロフェッショナルズ・ワークショップ、明治大学商学部特別テーマ実践科目、広島経済大学興動館教育プログラム、甲南大学CUBEプロジェクト科目、同志社大学プロジェクト科目においてPBL (Project-Based Learning) に取り組む学生が、それぞれの取組発表を行いました。今回の主役は学生であることが際立ったのが続いて行われたパネルディスカッションでした。司会の山田和人PBL推進支援センター長からキーワードのパスを受けた学生が自らテンポ良く議論をつなげていく場面が多く有り、会場の参加者からは驚きと感心の声が聞かれました。フォーラム後の懇親会では、発表を行った学生同士や大学間の交流が活発に行われ、大変な盛会となりました。今後は2012年度以降も引き続きフォーラムを開催予定です。詳細が決まり次第ホームページでお知らせしますので、ご興味のある方は是非ご参加ください。

## ■ 2011年12月10日(土) 2012年度プロジェクト科目 担当者・代表者説明会



プロジェクト科目の特徴の1つとしてテーマ公募が挙げられます。今年も応募総数72件の中から、学内審査を経て21テーマが2012年度プロジェクト科目として採択されました。4月の開講に向け、プロジェクト科目の主旨や、授業運営、シラバス作成等についての説明会を、2012年度担当者を対象に行いました。21テーマのうち、新規採択分は9つとなり、今までにはなかった新たなプロジェクト活動が期待できそうです(本紙最終面にテーマをご紹介します)。

## ■ 2011年12月20日(火) 2011年度プロジェクト科目 秋学期プロジェクト・リテラシー講習会

プレゼンテーション形式で行う秋学期成果報告会のレクチャーを兼ね、「伝える技術について～プレゼンテーション～」と題した講習会を行いました。今回も株式会社内田洋行およびパワープレイス株式会社の皆様にご協力いただき、京田辺、今出川両校地共、ワークショップ形式の実践演習となりました。講師によるお手本を交えた講義の後、3-4人のグループ毎に、3つのテーマの中からそれぞれ選択した1テーマについて、画用紙を用いた発表を行いました。20分間の準備、そして3分間の発表の中では、用紙に記載する情報の量やその見せ方等、自分達のメッセージを如何に伝えるのか、プレゼンテーションファイルにも応用できる様々な工夫が見られました。参加したプロジェクト科目受講生が、それぞれのプロジェクトに学んだ内容を持ち帰り、成果報告会当日の発表へどう反映するのか、楽しみとなる講習会でした。



- 2012年1月11日(水) 2011年度プロジェクト科目 秋学期学生懇談会
- 2012年1月18日(水) 2011年度プロジェクト科目 秋学期SA・TA懇談会



プロジェクト活動も終わりに差し掛かる1月、昼休み時間を使って秋学期懇談会を開催しました。学生懇談会では、活動途中で中心メンバーが辞めてしまったプロジェクトがいくつかあったことが判明しましたが、チームがバラバラになる危機や、方向性を失いそうになった時期を経験し、逆にそれをきっかけとして1つにまとまったという意見に、参加者の多くが共感していました。学部や学年の異なるプロジェクトのメンバー間で、それぞれが認め合い、助け合うことで、結果、チームとして前に進むというこの科目ならではの学習を学生はしっかりと行っていました。また、SA・TA懇談会では、「たとえ学生主体であっても、全てを学生に自由にやらせるのではなく、プロジェクト開始時に担当者によってある程度のビジョンを示すことが、その後のプロジェクト活動には重要である」という確かな指摘もありました。受講生ではない一線を画した立場の違いを意識した発言が目立ったのが印象的でした。どちらも1時間の短い時間でしたが、ほとんどのプロジェクトにとって中間地点であった春学期懇談会に比べ、苦勞をチームで乗り切り大きく成長した様子を垣間見ることができました。



## 卒業生からのメッセージ



堀内 ゆうきさん

【プロフィール】

2007年度「からだと心のための演劇+音楽ワークショップ」、2008年度『演劇で地域の子供達と学ぶ』企画実践プロジェクト、2009年度「京都の伝統織物の情報発信プロジェクト」「わらべ歌遊びを通して子ども達に京のこころつなげるプロジェクト」受講生。2010年3月に同志社大学文学部美学芸術学科を卒業。現在、高槻市立図書館に非常勤嘱託員として勤務。2012年4月から地元の福井市の図書館に就職予定。

いまプロジェクト科目時代を思い出すと、なかなか無茶なことばかりしていたなあというのが正直なところ。特に4年生になってからは、就職活動や司書資格取得、卒業論文に加えて2つもプロジェクトを受講してしまい……失敗し、後悔したこともたくさんあります。でも、そこまで無理ができたのは学生だったからこそ。そして、無茶でも楽しかったというもまた、正直な気持ちです。

同じプロジェクトに集まってきたメンバーのはずなのに、目的が違う。目的を統一できたと思っても、今度は意見が割れる。それぞれ用事や事情があってなかなか集まらない。たった10人前後でも、ひとつのチームになることがいかに難しいことかを知りました。しかし、そうやってぶつかりあった人ほど、卒業して離れたいまも自信をもって仲間だと言えます。

人間関係は、1人ひとり立場も考え方も違うのが前提です。それでもみんなが納得し、満足する方法を探していくのが社会だと思っています。座学の講義だけではわからなかったことを、私はプロジェクト科目で教えていただきました。司書として働き出してから、図書館の考え方や慣習を当然と思わず、できるだけ利用者の方々に寄り添うサービスをしようと心がけています。

これからプロジェクト科目を受講しようとする皆さん、活動する中で関わる仲間や社会人の方々と、たくさん話をしてください。自分の目で見、自分の足で歩き、自分の頭で考えてください。一生懸命に、でもあまり無理はしないでください。

## 2012年1月22日(日) 2011年度プロジェクト科目 秋学期成果報告会



秋学期科目1つ、春学期・秋学期連結科目18が一同に集い、今出川校地明徳館21番教室において、最終の成果報告を行いました。春学期のポスターセッション形式と異なり、秋学期は教室壇上でのプレゼンテーションです。発表10分間、質疑応答2分間といった限られた時間を守り、それぞれのスキルや個性を活かした報告が行われました。また、今年度は新しい試みとして、自己・相互評価を取り入れました。自身のプロジェクト活動を振り返るのは勿論のこと、活動を通じて培ってきた学生の評価力を発揮してもらうため、事前抽選によって決定したペアのプロジェクト報告について相互に評価をするものです。報告会では、教育支援機構長、全学共通教養教育センター所長、教務主任連絡会議委員、そしてプロジェクト科目検討部会委員から成る審査員も出席し講評を担当しました。



全ての発表後にはベストプレゼンテーション賞への投票を行い、最優秀賞および優秀賞には、審査員と各プロジェクトによって投票された総合獲得ポイント数上位が、特別賞には、各プロジェクトからの得票数1位が選ばれました。最優秀賞と特別賞はなんとダブル受賞の快挙です。受賞プロジェクトの皆さん、おめでとうございます。

■最優秀賞：心ぬくもる「絵本」に出会う～絵本ソムリエ・プロジェクト～

■優秀賞：平成の京街道をゆく～京阪沿線の魅力を発見・発掘・発信しよう！  
京都の織物文化活性化計画！～織物の伝統技術について考えよう～

■特別賞：心ぬくもる「絵本」に出会う～絵本ソムリエ・プロジェクト～

## 2012年2月18日(土) 2011年度 シンポジウム

文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムに係るシンポジウムを開催しました。教育GP最終年度となる2011年度は、「第3弾 学びの原点 プロジェクト型教育の挑戦!-誰が何をいかに評価するのか?-」という大胆なテーマを掲げ、溝上慎一氏(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)、土肥紳一氏(東京電機大学情報環境学部准教授)、飯田周作氏(専修大学ネットワーク情報学部教授)をシンポジストに迎えました。パネルディスカッションでは、プロジェクトの成果発表を行った2011年度プロジェクト科目受講生も交え、司会の山田和人センター長と共に熱い議論が展開されました。PBLにおける「評価」という難しい面に切り込んだ今回のシンポジウム、全国からご来場いただいた会場の皆さんは、どうお考えになるでしょうか。



## 2011年度プロジェクト科目 学成果報告書



プロジェクト活動を受講生自身が振り返った2011年度学成果報告書が完成しました。今年度活動を終えた22科目について、写真や図とともに、活動の成果を伝えています。また、今回は学成果報告書作成以来3年目となり、全受講生を対象として春・秋各学期末に「プロジェクト・リテラシーアンケート」を実施しました。受講生がプロジェクト活動に必要なと思う要素、そして、プロジェクト活動を通して自身に身に付いた要素について集計し、グラフ化した結果を掲載しています。この学成果報告書は、受講生には勿論、PBLに関する情報発信ツールとして、学内そして他大学などに配布する予定です。

同志社大学PBL推進支援センターの山田和人センター長によるコーナーです。



孫引きで恐縮だが、アメリカのNational Training Laboratoriesの調査によると、定着率の高い学習方法は「他の人に教える 90%」「自ら体験する 75%」「グループ討論 50%」「デモンストレーション 30%」「視聴覚教材 20%」「読書 10%」「講義 5%」ということだ。「わかる」から「できる」への学びのパラダイムシフトの必要性を示している。プロジェクト学習は、定着率の高い学習方法の前者3要素を兼ね備えている。現在進行形のプロジェクト活動が、学生の人的な成長度と学習効果の相乗効果を生み出している。プロジェクトの中で、学生は自ら悩み、考え、行動する力を身につける。昏迷を極める現代社会では、真に悩み、考え、行動することができる骨太の人物が求められていることを肝に銘じたい。

山田センター長のつぶやき